

小田原市教育委員会臨時会会議録

1 日時 令和5年8月2日(水)午後1時30分～午後2時45分

場所 小田原市生涯学習センターけやき 3階 視聴覚室

2 出席者氏名

1番委員 柳下正祐(教育長)

2番委員 益田麻衣子(教育長職務代理人)

3番委員 井上孝男

4番委員 菱木俊匡

5番委員 秋元美里

3 説明員等氏名

教育部長 飯田義一

教育部副部長 栢沼教勝

教育総務課長 岡田夏十

教育指導課長 中山晋

教育指導課指導主事 鈴木孝宗

教育指導課指導主事 津田裕子

(事務局)

教育総務課係長 三浦慶太郎

教育総務課主任 漆崎亜結美

4 議事日程

日程第1 議案第28号 令和6年度使用小学校教科用図書(算数・理科・生活・音楽・図画
工作・家庭・保健・英語・道徳)の採択について (教育指導課)

5 議事等の概要

(1) 柳下教育長開会宣言

○柳下教育長 本日の出席者は5人で定足数に達しております。

なお、本日の傍聴者の定員につきましては、小田原市教育委員会傍聴規則第4条ただし書の規定に基づき、30人とします。

(2) 議事録署名委員の決定…2番 益田委員、4番 菱木委員に決定

(3) 日程第1 議案第28号 令和6年度使用小学校教科用図書(算数・理科・生活・音
楽・図画工作・家庭・保健・英語・道徳)の採択について (教育指導課)

○教育指導課長 それでは、私から御説明申し上げます。

7月26日開催の教育委員会定例会におきまして、令和6年度使用の小学校の教科用図書13

種目のうち、4種目について採択いたしました。本日は、算数・理科・生活・音楽・図画工作・家庭・保健・英語・道徳の残り9種目について、小田原市の児童にもっともふさわしい教科書を採択していただきます。

説明は以上です。

(質疑・意見等なし)

○柳下教育長 それでは、令和6年度使用小学校の教科用図書について、種目ごとに各委員から御意見をお聞きした後に、多数決を行い、候補とする図書を決定していきます。全ての種目の図書の候補が決定した後、一括で採決を行います。図書に関する御意見につきましては、皆さんの独自の調査研究をもとに、小田原の子供たちにとって最もふさわしいと考える教科書について、1社または2社について御発言ください。多数決で過半数のものがあればそれを候補としますが、過半数となるものがない場合、再度上位2社または3社による多数決を行います。このような方法で進めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

○柳下教育長 それでは、算数から候補の決定を行います。算数は、6社が発行しております。委員の皆様から御意見を伺います。益田委員、菱木委員、秋元委員、井上委員の順にお願いします。

○益田委員 算数は、苦手意識を持ちやすい科目だと考えているので新しい単元に入るときにその苦手意識を持たないような説明になっているか、また、分かった、できたといった体験が大事だと思っていますので、反復練習ができるかという点から読みました。その視点で見たと、私は学校図書と啓林館が良いと思いました。まず学校図書ですが、新しい単元に入るときに説明が丁寧だと感じました。また考え方モンスターを登場させるなど、数学的な考え方を児童が興味を持つ形で表現していました。また、中学への架け橋の教材があり、算数が得意な児童に対する教材も扱っているのも良いと思いました。できるようになったこと、学びを生かそうというところで、復習から応用の流れもできていて、発展につながっている点も良いと思いました。啓林館については、説明がコンパクトにまとまっていて、問題数が多くて、反復練習がよくできると感じました。SDGsのコーナーも設けてあり、世界に目を向ける工夫もありました。ただ、難易度が高いという感じもしたので、私は学校図書を推したいと思います。以上です。

○菱木委員 どの出版社も、1年生ではノートを使わずにデジタルコンテンツだけで学習できるようにして荷物を減らすことも考慮されていると感じました。3、4年生で習う分数や小数が算数でつまずく元になるのですが、デジタルコンテンツでまず講義を受け、それから会社ごとに違いますが、「ステップアップ算数」や「学びのサポート」等で復習して知識の定着を目指すという構成が良いと思いました。その中でも、中学以降の数学で使う言葉というコーナーを設け、数学の学習への導入がしやすいように工夫されていた啓林館が良いと思いました。以上より私は啓林館を推薦したいと思います。

○秋元委員 私は東京書籍を推薦いたします。各単元で得た知識を定着させるための仕組みが一番行き届いていると感じました。また、4年生以降ではアスリートや宇宙飛行士の話な

ど子供たちが身近に感じるような工夫がされていることと、日常生活で算数を活用する場面が問いで設定されているのも良いと思いました。また、デジタルコンテンツを中心につまづいた子供たちに対しての対策用の問題が充実しているのも良いと思いました。以上です。

○井上委員 東京書籍、啓林館、学校図書の3社が良いと思いました。1年生を比較すると各社、版が大きく、直接書き込みができ、イラストも楽しく、学びやすい工夫が感じられました。その中で、啓林館は教科書に書き込むときに鉛筆が乗りやすく書きやすいという印象を受けました。人物写真とイラストの使い方が身近な感じで分かりやすいと思いました。特にスタートブックは算数を始めるのにとっても楽しいと思いました。また、東京書籍の学習の仕上げ、つないでいこう算数の目、単元ごとの考え方が確認ができる点、学校図書の単元ごとにある「できるようになったこと」、「学びをいかそう」、「考え方モンスターで振り返ろう」で全学年の振り返りができるようになっているのも良いなと思いました。立体図形では求積するときに注目すべき場所が分かりやすくなっているのは2社が良かったと思いました。啓林館は学びのまとめで確かめよう、振り返ろう、やってみよう、学びを生かそうで生活の中で算数の学びを実感できるのがとても良いと感じました。また、新単元での導入説明もキャラクターとともに考える流れを示していて、ポイントがとても分かりやすいと感じました。全体的に少し難しめな教科書だと感じましたが、子供たちにレベルアップをしてほしいという希望を考えていくと、こういう難しめな教科書で学んでほしいと思いますので、啓林館を推したいと思います。

○柳下教育長 算数の目標は数学的な学習を通して数学的に考える資質・能力の育成となっています。私は、興味関心を持って、意欲的に数学的な活動に取り組むための工夫がされているか、これが数学的に考える資質・能力の育成につながると考えています。楽しく学んで、分かる、できる、そして次へ挑戦するということが大事なので、そういう視点で選びました。3、4年生ぐらいになると算数で差がつくということがよく言われますが、やはり1年生のうちから楽しくしっかり基礎を学んでいかないと、差というのはどんどん広がりますし、3、4年生になるまでに1、2年生で算数がつまらなくなったらこれはもう何もならないと思っています。そこで、私は学校図書を推したいと思います。単元導入時に「はてなを発見」を設定してあり、自ら課題を発見し、主体的に課題を解決していく活動のイメージが持てるように工夫されていると思います。またつまづきやすい内容について、誤答やつまづく理由を具体的に示している、つまり、つまづき対策がしっかりしているという点で学校図書を推したいと思います。

○柳下教育長 それでは、各委員からの御意見を伺いましたので、多数決に移ります。今から出版社名を読み上げますので、挙手をお願いします。(1社ずつ、挙手による多数決)

東京書籍	…	1 票
大日本図書	…	0 票
学校図書	…	2 票
教育出版	…	0 票
啓林館	…	2 票
日本文教出版	…	0 票

○柳下教育長 2票だった「学校図書」「啓林館」の2社で再度多数決をとります。多数決前に御意見がありましたらお願いします。

(意見なし)

お一人1回の挙手でお願いします。(1社ずつ、挙手による多数決)

学校図書	…	3 票
啓林館	…	2 票

○柳下教育長 多数決の結果、「学校図書」が候補となりました。

○柳下教育長 それでは、次に理科の候補の決定を行います。理科は、6社が発行しております。委員の皆様から御意見を伺います。

○益田委員 理科は、観察実験を通し、結果から考察するという理科のおもしろさを伝える内容となっているかという点に着目してみました。そこでは、東京書籍と啓林館が良いなと思い、どちらも学びのラインが明確だったという点、実験観察の注意がその都度されている点、興味を引く写真やイラストを使用している点など、重要と思う点を押えていました。その中でもどちらかという点で東京書籍の方がより大きく見やすいと感じました。東京書籍の理科の世界探検部では、その単元での学びをキャリアや世界課題にもつなげていて、理科の学びを広い視野から見られるというのを感じました。また、東京書籍は算数科で学んだことを活用しようなど、他教科と関連させているところも良いと思いました。以上のことから、私は東京書籍を推したいと思います。以上です。

○菱木委員 各出版社とも主体的に学習できるように、単元ごとに「問題を見つける」、「観察・実験・予想」、「考える・まとめる」というような理科的な流れが意識されていて、デジタルコンテンツもかなり良くできていると思いました。差があると感じたのはデジタルコンテンツでした。ほぼ全てのページにデジタルコンテンツがあるのは東京書籍、大日本図書だけで、特に実験のページと同じページに実験器具の使い方をデジタルコンテンツで示しているのは大日本図書だけでした。児童が実験をする前に実験器具の使い方を見れば、安全に実験もできる点も考慮して、私は大日本図書を推薦します。

○秋元委員 私は、東京書籍を推薦します。画像やイラストが効果的に使用されていて見やすく配列されていると感じたのと、問題解決が各段階1本のラインで結ばれていて分かりやすく見通しを持って学習できると感じました。また、各単元の終わりに理科の世界探検部という部分で、身近な方々、働いている方々にインタビューした内容が記載され、子供たちに親しみやすく、理科のおもしろさをうまく表現されていると思いました。また、2次元コード、デジ活というものがあり、児童が自分で考えて、それを友達に伝えるという活動を促しているのもインプットからアウトプットという流れも重要であり、良いと思いました。以上です。

○井上委員 東京書籍は、デジタルコンテンツが充実しています。学び方のレッツトライは、実験、観察、考察と児童が目で見、写真や説明が大きく、びっくりするほど大きいのですが、興味が湧き楽しそうだなと思える工夫がされています。先生も学習を進めながら、児童と一緒に考えてみようとするのが分かりやすいと思いました。教育出版は、図が大きくて良いですが、「体のつくり」の図は逆に大きすぎて抵抗を感じました。重要語句のマーカーも良いですが、ここは逆に児童に引かせたいと思いました。全体的には難しくなく、学びやすい教科書だと感じました。啓林館は二次元コードの配置が多く、動画を利用して興味深く学べる工夫がとても良いと思いました。また、丁寧な説明で分かりやすく学習が進められるようになっていて、生活の中での話題も取り上げ、関心を持たせやすくしていると感じました。3社を検討して、総合的な内容で私は東京書籍を推します。

○柳下教育長 私は、理科の目標は見通しを持って実験、観察などを行うことを通して、問題を科学的に解決するための資質・能力を育成することと考えています。まず見通しが持てるということ、それから実験・観察の力が育まれるということ、そして科学的に考えるということ、この3つの視点を中心に選ばせていただきました。3社について話をさせていただきます。東京書籍ですが、学びのラインに沿って見通しを持って学ぶことができ、既習事項を生かして予想を立てるよう工夫されています。この予想を立てるということが非常に大事で、既習経験とそれぞれの生活経験、これをうまく合わせて自分で予想を立てるわけですが、その予想を立てる、見通しが持てる、実験・観察の力が育まれるということとマッチしていると考えました。それから、大日本図書ですけれども、具体的な事例、また具体物から問題発見、調査、観察、実験ができるように工夫されていると思います。教育出版は、巻頭の「学習の進め方」で、見通しを持って学べるようにしていると思います。また問題が具体的で、主体的に学べるよう工夫がされていますし、また他教科とのつながりを示しているところが良かったと思います。それぞれ3社どれも良いと思いましたけれども、総合的に考えて東京書籍を推したいと思います。

○柳下教育長 それでは、各委員からの御意見を伺いましたので、多数決に移ります。今から出版社名を読み上げますので、挙手をお願いします。(1社ずつ、挙手による多数決)

東京書籍 … 4票
大日本図書 … 1票

学校図書	…	0 票
教育出版	…	0 票
信州教育出版	…	0 票
啓林館	…	0 票

○柳下教育長 多数決の結果、「東京書籍」が候補となりました。

○柳下教育長 それでは、次に生活の候補の決定を行います。生活は、7社が発行しております。委員の皆様から御意見を伺います。

○益田委員 生活は、生活に必要な習慣、技能を楽しく身に付け、理科社会への興味をつなげているかという点に着目しました。その中で学校図書と東京書籍が良いと思いました。両社とも使用写真の表情がとても良くて、イラストも優しい感じで、生活科として親しみやすく感じられました。また、ページの左上に学ぶことが明確に示されていて、学びの見通しも立てやすいと思いました。その中で、学校図書は、春夏秋冬その時々 of 題材が取り上げられていて、季節との関連を感じやすいなと思いました。また、学び方図鑑では、安全や活動するときの注意点がまとめてあり、学力もつけられると感じました。以上のことから、私は学校図書を推したいと思います。

○菱木委員 生活は小学3年生から始まる理科、社会科への橋渡しをする科目なので、子供たちに興味を持たせるような構成や内容になっているかということに注目しました。東京書籍は、「いきものずかん」が実物大で写真もダイナミックでした。啓林館の「びっくりずかん」や「がくしゅうずかん」、「デジタルたんけんブック」などが非常に良くて、各社よく考えて作っていると思いました。教育出版は、色使いがきれいで、教科書のキャラクターが歩く道をたどると自然に気付いたり主体的な学びが見につくような工夫がされていたので、教育出版を推薦します。

○秋元委員 私は東京書籍を推薦させていただきます。ダイナミックな写真が掲載されていたので、一番見やすくて児童が思いや願いを膨らませやすいのかなと、そういう工夫を写真に感じました。その他、育成すべき資質や能力がすごく分かりやすく見出しにマークで具体的に示されていて、ここの単元では何を学ぶのかということが分かりやすかったのが理由の一つです。また、身近な子供とか高齢者や障がいのある児童、外国人など多様性というところの関わりが写真でさりげなく描かれているのも東京書籍だと思いました。以上です。

○井上委員 教育出版、光村図書、啓林館この3社で絞らせていただきました。その中で教育出版はA4版仕様で、1、2年生に扱いやすく、横統一のレイアウトやフォントもやわらかく見やすかったです。スタートページで学校探検の説明が入学したての児童に分かりやすいと思いました。わくわくして教科書を広げている児童の様子を想像しました。單元ごとに豊富な写真とその名称、植物や虫などを含めてですけれども、巻末などではなく間に挟んで掲載されています。また、感じたことなどの書き込み欄があり学習の確認ができます。そして「ぐんぐんはしご」を流れに沿って使うと楽しい学びができると思ったので、教育出版が良いと思いました。

○柳下教育長 生活科そのものは、自立の基礎を養うという大きな目標があります。自然、生き物、人、物、生活様式、文化、それらとの豊かな関わりを育んでいくことが大事だと思います。様々な気づきを友達や関わる人たちとともに共有し、学びを深めていくという視点で見させていただきました。まず、教育出版ですが、人や物やことに問いかけて、社会を創っていく子供を育てる。社会力を育む本市の目標と合っていると思います。学習のヒント、取り外しができる広がる生活辞典、学びのポケット、これらが良いと思いました。様々な気づきを共有して学びを深めていくことができる教科書であると思いました。

また、東京書籍は、発達段階に応じて活動が広がっていく、気づきの質が高まって、深まりが持てるように構成されていると思います。子供だけでなく、保護者や子供に関わる人たちが協力・連携して学びを支えることができる、そういう教科書であると思います。最終的には教育出版を推したいと思います。

○柳下教育長 それでは、各委員からの御意見を伺いましたので、多数決に移ります。今から出版社名を読み上げますので、挙手をお願いします。（1社ずつ、挙手による多数決）

東京書籍	…	1票
大日本図書	…	0票
学校図書	…	1票
教育出版	…	3票
信州教育出版	…	0票
光村図書	…	0票
啓林館	…	0票

○柳下教育長 多数決の結果、「教育出版」が候補となりました。

○柳下教育長 それでは、次に音楽の候補の決定を行います。音楽は、2社が発行しております。委員の皆様から御意見を伺います。

○益田委員 音楽は、様々な音楽に触れることができ、歌や楽器演奏に苦手意識を持たず、楽しんで学ぶことができるかという視点で見ました。どちらの出版社も良かったのですが、私はより良かったと思ったのは教育出版です。音やリズムのイメージを体や言葉で表現するところがあって、音楽を耳からだけでなく、体全体で感じとることができるようになっていました。また、巻末に音楽を表すいろいろな言葉というのがまとめられていて、感じたことを言葉で表すことで、心との関連も生まれると感じました。全校合唱の「さんぽ」が6学年全部載っていてそれぞれの発達に応じた楽譜になっていました。手話でも歌えるようになっていて、手話のイラストもついているところも良いと思いました。また、日本の歌やみんなの歌で使用されている曲の写真の使い方がとてもダイナミックで余計な情報が書かれていないので、曲の良さをすごく引き立てているところがよかったです。以上から教育出版を推したいと思います。

○**菱木委員** 自分は、楽器が得意ではなかったのですが、そういう苦手意識を持たないような教科書が良いという点を重視して選びました。ハーモニカやリコーダーの導入では動画で説明がありましたし、そのおかげで、音楽があまり得意でない先生も教えやすく、子供たちもステップアップができるという工夫がされていました。楽曲の写真も曲のイメージに合うように、特に富士山の写真は見開きで大きく、雄大さがよく出ていました。以上から教育出版を推薦します。

○**秋元委員** 私は、教育出版を推薦させていただきます。楽器に苦手意識を持たないように実物大で示されていてとても分かりやすいのと、鍵盤ハーモニカやリコーダーの学習ではページ数もたくさん取って、細やかなステップでつまづかないように進められるように配慮されていました。また、緩やかに段階を追ってステップアップできるように仕組みがつけられているように思いました。また、教材「富士山」には、様々な写真が載せてあって、その雄大さというところをいろいろな角度から表現されていて曲のイメージを膨らませるような、そういう細やかな配慮というところも私は良いと思いました。以上です。

○**井上委員** 教育出版が良いと思いました。見開きで、題材ごとに学び方を示していて、児童が主体的に学習を進めることができると思いました。おぼろ月夜のとじ込み見開き写真も曲想をイメージアップさせると思いました。写真の使い方もすごく上手だと思いました。また、巻末の資料は音楽の知識や音楽の言葉、楽器図鑑などが上手に載せてあって、関心が持て、楽しいと感じました。以上のことから教育出版にしました。

○**柳下教育長** 歌唱、歌うことですね、それから演奏を楽しむ、生活の中の音や音楽と豊かに関わるということが大切であるという視点で見ました。教育出版は、共通教材の曲のイメージが広がるような工夫をしています。写真がダイナミックです。各委員のおっしゃられたとおりだと思います。それから鍵盤ハーモニカが実物大で載せてあります。それから指の運びがわかりやすいです。私も鍵盤ハーモニカは苦手です。苦手でできないといやになってしまいます。できるということは大事だと思いますし、それができやすいということが重要だと思いました。そして、楽器図鑑の動画も参考になりますし、音楽が楽しく好きになる教科書だと思いましたので、教育出版を推したいと思えます。

○**柳下教育長** それでは、各委員からの御意見を伺いましたので、多数決に移ります。今から出版社名を読み上げますので、挙手をお願いします。（1社ずつ、挙手による多数決）

教育出版	…	5票
教育芸術社	…	0票

○**柳下教育長** 多数決の結果、「教育出版」が候補となりました。

○**柳下教育長** それでは、次に図画工作の候補の決定を行います。図画工作は、2社が発行しております。委員の皆様から御意見を伺います。

○益田委員 図工は、物を作る楽しさや人の作品を鑑賞して楽しむ力を身に付けてほしいと思っています。どちらの出版社も写真を多用し、安全面の注意の記述もあり、適切な教科書だと感じましたが、どちらかというとな本文教出版の方が写真がきれいで、色使いやレイアウトも良く、図工の楽しさが伝わってくる構成になっていると感じました。音や言葉、自分の心などを表す題材があり、道徳や音楽や国語など、他教科との関連付けもされていました。広がる工作のコーナーでは図工を通して社会とのつながりを学べる題材も掲載されていました。以上の点から日本文教出版を推したいと思います。

○菱木委員 私は、図画工作の授業をする学校の先生の立場と授業を受けた子供たちの受け止め方を考えながら選びました。最初の見開きの年間スケジュールは、授業の進め方が分かりやすく記載されていましたし、動画も充実されていて良かったと思います。「つながる造形」では、デザインで社会貢献をするという人も紹介されていたので、開隆堂を推薦したいと思います。

○秋元委員 私自身が図画工作が苦手だったので、自分自身やってみたくと思えるか、それを作ってみたくと思えるかということを見てきました。最終的には開隆堂を推薦させていただきます。きらめきさん、こころさんといったキャラクターがすごく馴染みやすく、これらのキャラクターが分かりやすく、工夫するところなどを示していました。また、図画工作で身に付けた力をどうやって将来生活で使っていくのかとか、そういうことも掲載されていたり、未来につながる図画工作というイメージが私の中では持てました。また、伝統の技や地域に目を向けるなど、伝統工芸の良さも表現されていて良かったと思いました。以上です。

○井上委員 開隆堂、日本文教出版両社とも鑑賞するだけでなく、描いたり作ったり、児童がやってみたくと思うような構成がとても良くできていると思いました。特に日本文教出版は意欲をかき立てる題材、写真、図などへのコメントが細かくたくさん掲載されていました。また、造形的な見方や考え方をサポートし、より一層の主体的な学びを促しています。3、4年生のひらめきの種には、いろいろなものをどう見るのか、どう考えるのか、など、児童が自ら関心を持つように工夫されており、図工の学びを明確にしている教科書だと思いましたので、日本文教出版を推したいと思います。

○柳下教育長 私は、小学校の教員だったときに一度図工の研究をしていたことがあります。大きな目当ては子供の感性を育むことで、感性は心に感じて思う力と捉えていました。物を作ったり描いたりすることを楽しみ、創造性を膨らませ、自分の思いを広げていくような教科書であってほしいと思いました。日本文教出版は、絵や写真からイメージが広がりやすいと思います。解説や指示がそれほど多くなく、自由に取り組める、創造性が広がる、そういう作りになっていると思いました。開隆堂は、大変説明が丁寧で、細かい説明や吹き出しがありますが、若干多いと感じました。子供が自由に発想を持つためには、私は少し少ない方がよいと思いましたので、日本文教出版を推したいと思います。

○柳下教育長 それでは、各委員からの御意見を伺いましたので、多数決に移ります。今から出版社名を読み上げますので、挙手をお願いします。（1社ずつ、挙手による多数決）

開隆堂 … 2票
日本文教出版 … 3票

○柳下教育長 多数決の結果、「日本文教出版」が候補となりました。

○柳下教育長 それでは、次に家庭の候補の決定を行います。家庭は、2社が発行しております。委員の皆様から御意見を伺います。

○益田委員 家庭科は、家庭生活に必要な知識や技能を身に付け、自立や共生に向けた力を育む教科だと思っています。どちらも良かったのですが、私は開隆堂を推したいと思います。まず、単元数が多いことでスモールステップで学べる構成になっていました。一番良いなと思ったのは、調理の流れやミシンの使い方、お米の炊き方など手順が見開きで横軸を使って説明されていて、とてもすっきりと分かりやすくなっていました。キャリアインタビューが各所に入っていたり、巻末に載せたりしていて、キャリアや自立共生に向けた道筋をつけていると感じました。また、使用している紙が鉛筆で書き込みやすいものになっているところも良いと思いました。以上のことから開隆堂を推したいと思います。

○菱木委員 衣食住だけではなく、「売買契約などの社会的な法律を含めた買い物のしくみ」や「無駄な消費をしないように考える買い物の仕方」も記載され、現在世界が目指しているSDGsにも配慮した構成になっているので、開隆堂を推薦いたします。

○秋元委員 私は開隆堂を推薦いたします。見開きのところで、制作手順や調理手順が見やすい、流れが意識できる、書き込めるところが一番の決め手です。図や写真も大きく、示されていましたし、記述スペースが適宜用意されていて、自分の中で思ったことや考えたことを書きやすい、書き留めやすいと思いました。また、紙が鉛筆で書きやすいものになっているのも良いと思いました。また、自分の言葉でこれから生活に生かしたいこと、そういうこともなるべく書くように促している仕組みも良いと思いました。また、家族とか身近な人たちと考えよう、話し合おう、調べよう、やってみよう、発表しようなどの活動が随所に入っているのも、自分の中で完結するのではなくて、家庭科の学習を家族や身近な人たちと楽しんでできるような工夫がされていると思いました。以上です。

○井上委員 東京書籍のプロに聞く、開隆堂のキャリアインタビュー、それぞれがとても良かったと思います。キャリアインタビューは単元ごとに入れてあり、社会に目を向け、生活と関連したことを問題提起し、考え方を示していて、児童が学びやすいと思いました。振り返りに記述欄があり、書きやすい紙が使われていて良かったと思います。また、調理で使う食材が見やすく、あえて写真ではなくイラストにして見やすい工夫をしている感じを受けました。両社とも持続可能な社会を5、6年で取り扱っていますが、開隆堂は地域を大切に、ともに生きる、持続可能な社会で環境や資源についてもしっかりと学ばせ、中学生とつないでいけるつくりになっていました。巻末の持続可能な未来へのキャリアインタビューも児童に意識して読んでほしいというものでした。したがって開隆堂を推したいと思います。

○柳下教育長 衣食住などに関する実践的・体験的な活動、それから生活をより良くしようとする資質、能力の育成ということが家庭科の大きな目標になっています。2社とも学習の

進め方、実習手順の示し方、安全面への配慮などが良くできていると思います。開隆堂の方が基礎基本の定着を着実に図るよう学びの配列が見られると思います。衣食住などに関する実践的、体験的な活動と生活をより良くしようとする資質、能力の育成が図れるだろうとの判断から、私は開隆堂を推したいと思います。

○柳下教育長 それでは、各委員からの御意見を伺いましたので、多数決に移ります。今から出版社名を読み上げますので、挙手をお願いします。（1社ずつ、挙手による多数決）

東京書籍	…	0票
開隆堂	…	5票

○柳下教育長 多数決の結果、「開隆堂」が候補となりました。

○柳下教育長 それでは、次に保健の候補の決定を行います。保健は、6社が発行しております。委員の皆様から御意見を伺います。

○益田委員 保健は健康な生活のための知識を深め、それを実生活に生かせる工夫があるかという点で見ました。そこで、6社見させていただいた中で、3社に絞りました。学研と大修館書店、光文書院です。3社とも課題を見つけ、考えをまとめる学習の流れが明確で分かりやすく記載されていました。また、大修館書店の、調べる、光文書院の広げよう深めよう、学研のもっと知りたい調べたい、というコーナーでは、発展的な学習につなげる工夫もされていました。中でも学研は、どの社よりも課題を大きく示し、大見出しのページにその章で学ぶことが体系的に示されており、学習の見通しが立てやすいと感じました。また、つながりというコーナーには他教科との関連が示され、中学で学習するという記述もあり、学習のつながりを感じられる点も良いと思いました。以上の点から私は学研を推したいと思います。

○菱木委員 どの社でも单元ごとに学習の目的が明示され、デジタルコンテンツでは他教科との関連や関連のある仕事もチェックすることができ、知識を広げることにもできるように構成されており、どの社もよくできていると思いました。ただ、保健の教科書では、5、6年生になると体の成長期の部分で、体の解剖が出てきます。その時にイラストがあまり詳しくすぎると抵抗のある保護者もいるでしょうし、簡単すぎると正確さに欠けるので、私はそのバランスが一番取れている学研を推薦いたします。

○秋元委員 私は、学研を推薦させていただきます。自分や周りの人を大切に思い、進んで健康になるとか、身近な生活を健康に築くとか、学びを自ら進めるということを基本方針とされているところが良いと思いました。また、日本食や郷土料理といった健康面で注目されていることや、日本食が医学や保健の分野では世界的な貢献をしていることなどもすぐ分かりやすく説明されていました。イラストや図は、男女の性とか外国人の方々など固定的な表現とならないように多様性に配慮されたものになっていると思いました。以上です。

○井上委員 各社ともに児童が考えながら進められるように、記述欄が設けられ、内容を意識した学習が進められるようになって良いと思いました。イラストや写真の使い方も、イメージしやすい工夫がされていると思いました。その中で、特に学研は、書き込みスペースがとても良く、題材ごとに考えを書き込みながら学習に取り組む流れで構成され、学ぶことの説明が写真、イラストによってレイアウトされていて良かったです。単元のまとめには、学習したことを生かす工夫がされ、「かがくの目」、「ほけんのはこ」は資料としてとても分かりやすいものでした。ページの一番最下段には、言葉の説明もあり、学びが深くなっていくようで良いと思いましたので、学研が良いと思います。

○柳下教育長 私は、保健で大事なことは、健康寿命と言いますか、生涯健康でいる力の基礎を育むことだと思います。自分の心身の健康、生涯スポーツ、食との関わり、これらを興味関心を持って学び、実践力を身に付ける、それにふさわしい教科書はどれかという視点で見させていただきました。まず光文書院ですが、最初のところに保健を学ぶ皆さんへというスポーツ選手などからの投げかけがありまして、意欲的に自分のこととして学ぼうとする工夫が見られます。また、学んだ知識を振り返る工夫が見られる点、読みやすさ、親しみやすさ、学習内容の分かりやすさという点が良いと思います。学研は、文字、イラスト、写真のバランスが良くて、単元のまとめ「明日につなぐ」で学習したことを生かす工夫がされています。どちらも良いと思いましたけれども、私は最終的には光文書院を推したいと思います。

○柳下教育長 それでは、各委員からの御意見を伺いましたので、多数決に移ります。今から出版社名を読み上げますので、挙手をお願いします。（1社ずつ、挙手による多数決）

東京書籍	…	0票
大日本図書	…	0票
大修館書店	…	0票
文教社	…	0票
光文書院	…	1票
学研	…	4票

○柳下教育長 多数決の結果、「学研」が候補となりました。

（暫時休憩）

○柳下教育長 それでは、次に英語の候補の決定を行います。英語は、6社が発行しております。委員の皆様から御意見を伺います。

○益田委員 英語は、外国語活動から教科へと変わって、また中学へもつながっていくということで、英語への苦手意識を持たせない構成になっているかということを重視しました。

光村図書は、表紙をめくって次のページに、5年生は「さあ行こう英語の世界へ」、6年生は、「やってみよう間違いを恐れずに」という投げかけがありました。自分の経験を振り返ってみて英語の苦手意識は間違えたり、分からなかったりしたときの恥ずかしさから生まれるのではないかなと感じているので、一番最初に背中を押してくれるこのような声掛けは大切だと思いました。

また、リンク国語のコーナーでは、英語も国語も同じ言語であるスタンスを伝えていて、身近に感じられる工夫がされていました。アルファベットの学習をゲーム感覚で進められるような工夫もされていたので、私は光村図書を推したいと思います。

○菱木委員 私も同感でして、中学高校への英語学習につなげやすいかという目線で評価・検討しました。どの出版社もデジタルコンテンツが教科書の内容ときちりリンクしていて、タブレットを子供たちが直感的に使いやすく、教師の側から見ても教えやすく作られていると思いました。ただ、授業が進んでいくと自分が分かっているところと分かっていないところが把握できていないと、中学で困ってしまうので、それがチェックしやすい教科書が良いと思いました。開隆堂は、年3回のレッツチェックというコーナーで、単語等が確認できて、その後の学習につなげやすいと思いましたので、私は開隆堂を推薦いたします。

○秋元委員 私は、光村図書を推薦いたします。取り組みやすいと思いました。そしてスモールステップであることですね、基本的なことが身につけやすいように工夫されているのが光村図書だと思いました。それから児童が伝えたいと思えること、場所や状況、目的などで設定しています。自分の考えを表現する活動を単元を中心に設定してあるので、アウトプットの練習になると思います。また、私は世界の友達のコーナーをととても高く評価しましたが、各国の小学生の考えとか暮らし方が紹介されていたり、また、日本語と英語についてどういう違いがあるのか、そういう内容まで楽しく学習できる工夫がされていると思いました。以上です。

○井上委員 英語の教科書は非常に多くて、それぞれ見させてもらいましたが、どの教科書も楽しそうな写真や絵がぱっと飛び込んできました。世界の国の生活や文化を紹介しながら、英語に興味を持てるように工夫をしていると、各社それぞれの工夫が感じられました。その中でも光村図書、開隆堂、三省堂はそれぞれ写真とイラストの配置、色合いがとても良く、見やすい印象を受けました。各社若干の違いはあるのですが、記述や会話を聞いて、問いに答える工夫があり、楽しいと感じました。教科書のサイズについて申し上げますと、開隆堂や光村図書は、サイズが一回り小さく、児童が扱うには良いと思うのですが、どうしても全体的なつくりが小さくなるので、大きい方が良いと思いました。光村図書は、中学につながるような単語や文の掲載が良いですが、やはり紙面構成が小さく感じられ、内容が少ないと感じました。開隆堂は、外国との違いを話し合ったり、興味深く読めるようになっていのですが、文が少し難しいと感じる部分と内容が少し多いという感じを受けました。三省堂は、日本の一年間を月、季節ごとに行事や地域の魅力を外国人のキャラクターを通じて、一緒に話しながら紹介していくストーリー性が楽しいと思いました。また、各レッスンで聞くこと、話すこと、キャラクターの会話を聞いて練習する、そこからコミュニケーション表現活動に進む、という構成が自然でとても良いと思いました。単語も身近な覚えやすい言葉

が多く扱われてやりやすいと思います。また最初のページから身に付けた語句や表現を使って伝え合うことができるようになっている、ストーリータイムや世界のお話は、学んだ英語を確認しながら児童にさらに興味を持ってもらえる楽しいページだと感じました。これらのことから三省堂を推したいと思います。

○柳下教育長 私は、小田原の子供たちは中学校卒業時には、英会話ができるようになってほしいと思っています。これから国際人となっていく子供たちに英会話は絶対必要だと思いますし、外国や外国文化、また英語に興味関心を持って楽しく学べる、自分との関わりを豊かに作っていく、そういうことが重要だと思いました。そういう視点で、どの会社も楽しく学べるような工夫が見られます。その中で、光村図書は児童が伝えたいと思えるような目的場面、状況が設定されていました。それから2学年を通して教科書が一貫したストーリーになっていること、読む、書く活動は十分に言葉に慣れ親しんでから無理なく学べるように工夫されていることから、光村図書を推したいと思います。

○柳下教育長 それでは、各委員からの御意見を伺いましたので、多数決に移ります。今から出版社名を読み上げますので、挙手をお願いします。(1社ずつ、挙手による多数決)

東京書籍	…	0票
開隆堂	…	1票
三省堂	…	1票
教育出版	…	0票
光村図書	…	3票
啓林館	…	0票

○柳下教育長 多数決の結果、「光村図書」が候補となりました。

○柳下教育長 それでは、次に道德の候補の決定を行います。道德は、6社が発行しております。委員の皆様から御意見を伺います。

○益田委員 道德は、自分のこととして捉えられ、自分ごととして考えられる教材が良いと思っています。光文書院は、題材ごとに考える道筋が書かれていて、教師にとって扱いやすい教材だと感じました。学研は、教材名にサブタイトルがなく、授業に主観が入らず、多様な考えを引き出すことができると感じました。写真やイラストが効果的に使用されており、教材以外の余計な情報が書かれておらず、すっきりとして読みやすかったです。すっきりしているところから子供たちの考えが広がるのではないかと感じました。キャリアや歴史、世界などの題材があり、子供たちの視野も広がるのではないかと感じましたので、私は学研を推したいと思います。

○菱木委員 どの出版社も「自分」「周りの人」「いじめ」「情報モラル」等で問題を提起して「考える」「まとめる」「ひろげる」等のコンセプトで構成され、工夫されていました。私

は、実在する高い道德観を持った人物を通して道德観を学ぶことが、子供たちに今後良い影響を与えてくれると考えておりますので、日本のシンドラマーと言われるリトアニア大使であった杉浦千畝のドキュメンタリーとして読める光文書院を推薦したいと思います。

○秋元委員 私は、頭で理解するというより心に落とすことが道德はとても大事だと思うので、光文書院を推薦いたします。重点的にいじめを生まない心ということを全学年掲げられていることや、現代に重大な課題が盛り込まれているのが一番の決め手でした。また、メダカの学校は小田原市ゆかりの教材なので、メダカの学校を取り扱っているのも良いと思いました。

○井上委員 社会との関わりがとても大切な時代に、自分を含め、周りの人たちとどう関わっていくのか、様々な視点で考えられる教科書が良いと思いました。考え方を誘導するというか、教え込むという内容は駄目だと思うのですが、各社とも児童がよく知っている人物や題材を扱って、取り組みやすいものになっていました。挿絵やイラストも上手に印象づけができていました。小田原市との関連があるものを取り上げているものは、身近に感じられて良いと思いました。その中で東京書籍や光文書院のフォントや色合いは、見やすくとても良いと思いました。中でも学研は、学年ごとに自分のこと、友達、社会と私、自然や命と私等の関わることを身近な文章やよく知っているお話から学びながら考える、このような構成で良かったと思います。文章をサポートするのは、写真ではなくて、イラストが多く、イラストの方が想像することでより一層の考える効果があるのではないかと思います。また、文章がページ途中で終わらず、それぞれのページで収まり、解説、資料、写真が単独ページで記載され、分かりやすかったと思います。何を考えれば良いのか、ヒントが示されていて学習しやすいと思いました。児童が授業にいろいろな意見を出して、参加しているだろうという想像ができました。道德の教科書は学研で学んでほしいと思いました。

○柳下教育長 道德教育の全体計画は、校長の明確な方針の下に道德教育推進教師が中心となって全教師の参加と協力により総意と英知を結集して作成されるものとなっています。子供の立場を最も考えるわけですが、ここで目を向けたいことが、今、教員経験4年以下の先生がとても多いです。その先生方は、コロナ禍で対面で学び合う授業の経験が少ない。やはり指導のしやすさということ、児童が分かりやすいか、評価のしやすさということ、児童の自己の振り返りと実践力につながる指導と評価ができるか、そういう教科書が良いと考えます。そういう点で光文書院が、児童が問いを見つける構成、考えたい教材、可能性を広げる学びの工夫がされていると思います。そしていじめを生まない心を全学年に掲げていますが、道德が教科になった背景にはこれが大きくありますので、ここは重要だと思います。それから学びの足あと1年間の学びを一覧で確認できる工夫、他教科との関連ができる工夫、学校教育全般で実践する学びということがありますので、私は光文書院を推したいと思います。

○柳下教育長 それでは、各委員からの御意見を伺いましたので、多数決に移ります。今から出版社名を読み上げますので、挙手をお願いします。(1社ずつ、挙手による多数決)

東京書籍	…	0 票
教育出版	…	0 票
光村図書	…	0 票
日本文教出版	…	0 票
光文書院	…	3 票
学研	…	2 票

○柳下教育長 多数決の結果、「光文書院」が候補となりました。

○柳下教育長 以上により、令和6年度使用小学校の教科用図書については、算数「学校図書」、理科「東京書籍」、生活「教育出版」、音楽「教育出版」、図画工作「日本文教出版」、家庭「開隆堂」、保健「学研」、英語「光村図書」、道徳「光文書院」となります。この9つを令和6年度使用小学校の教科用図書として採決してよろしいでしょうか。

(異議なし)

採決…全員賛成により原案のとおり可決確定

6 柳下教育長閉会宣言

令和5年9月28日

柳下教育長

署名委員（益田委員）

署名委員（菱木委員）